

平成 28 年 7 月総務企画委員会 議事概要

H28. 7. 20 作成

日 時：平成 28 年 7 月 19 日（火） 18：05～19:35

会 場：建築士会 会議室

出 席：(担当副会長) 長田 喜樹

(委 員 長) 芝 京子 (副委員長) 山成 芳直

(委 員) 加藤 高明、天神 正志、加藤 清、玉野 直美、沼田 有二、八重野みどり、

オブザーバー：須藤専務理事

< 確 認 事 項 >

1 前回(6/21)議事録の確認【資料 1】

メーリングリストで事前送付済みの原案について、特段の異議なく承認された。

< 協 議 事 項 >

1 監査会における総務企画委員会の出席について【資料 2】

- ・専務理事より、監事意見の概要を改めて説明した後、8 月 4 日の第 354 回理事会において、監事から同趣旨の説明を行いたい旨の要請があった付言。

(質疑)

(副会長)・本日の議題は「監査会における総務企画委員会の出席」と掲げられているが、監事からの意見は、正副会長常任理事だけでなく、会の運営全般にかかわる事項として総務企画委員会でも受け止めるべきとの趣旨か。

- ・前回委員会では、そもそも監事の役割や権限は何か、財務処理の適正さだけでなく、組織や事業全般のあり方にも及ぶものなのか、といった点や、総務企画委員会が置か委員会の事業について、どこまで突っ込んだ関与ができるのかといった点で議論が残ったように思うが。

(委員長)・監事が理事会でも説明をしたいという趣旨は何だろうか(そこまで重大な課題が会の運営全般に関して存在するという事なら)正副常任での議論や、支部長・委員長会議の場での周知といった措置に委ねるだけでなく、総務企画委員会でも受け止めて議論する必要はないか。

(副会長)・どの委員会の、どの事業がおかしいとか、組織形態が不適切だといった議論が始まると、不毛な水掛け論に陥る恐れもある。もう少し客観的なデータを揃えて、冷静に議論してもらいたいと考えている。

(専務理事)・本県士会の監事職については、定款上、理事会への毎回出席を義務付けてはいないので、運営の細部にわたる監査機能を期待しているとはいえない。ただ、金銭関係だけでなく事業・組織について物申すことは可能と考えるべき。

(副会長)・いずれにしても、8 月 4 日の監事報告を聞いたうえで、議論を続けてはどうか。

2 賛助会について(組織化)【資料 3】

- ・専務理事より、7 月 1 日時点での入会状況を説明。
- ・委員長より、他団体のように「賛助会」として組織化を図っていく必要性がないか議論すべきとの問題提起。

(質疑)

(委員長)・現在の賛助会イベントは講習会が中心だが、本委員会の賛助会小委員会が仕切っている。小委員会といっても実際は、山成さんや沼田さんのようなごくわずかの委員の方に尽力していただいて動いているのが実情であり、もう少し強化できないものか。

(副会長)・現在の「小委員会」方式は元会長の提案により 7 年前に発足。一般会員への周知を図るため、講習会を開催するアイデアもその時点で生まれたもの。

- ・他団体では、たしかに賛助会が組織されて役員が選ばれ、自発的な活動を行っている

- 例も見受けられるようだ。士会で、そのような組織化を行うメリットは何だろうか。ある種のイベントは賛助会の自主運営に委ねることができて、親団体の金銭負担や事務局の労力負担が軽減されるということか。
- (委員長)・ある団体のイベント開催は、金も労力もすべて賛助会が負担して実施されている。一般会員への露出頻度を高めることが、賛助会員入会促進につながるのであれば、そうしたイベントをやってもらうことも一法。
- (副委員長)・士会は資格者の個人加入団体であり、設計事務所関係者も多いがすべてではない。建材メーカー等の賛助会員から見て、賛助会活動に注力して受注につながるという動機は、専業者団体に比べ弱いのではないか。
- ・愛知県士会のHPでは、賛助会ニュースとして加入各社の動きを丹念に紹介している。
 - ・そうした露出手段もある。
- (委員)・現在の賛助会員さんは同一業種でも複数社が加入している。ライオンズクラブやロータリークラブのように、1業種1社という入会ルールにしていれば、競合関係がないので協調した活動ができそうだが・
- (委員)・ゼネコンの賛助会員の加入は、営利目的というより地域とのお付き合い＝地域貢献の観点。一方、明らかに一般会員事務所への売り込みを目的に入会された賛助会員社もあるので、バランスのとり方が難しい。
- (委員長)・同一業種も含めて多様な賛助会員社同士の交流の場を用意することが、ビジネスチャンスを生むという可能性はないか。
- (委員)・一種の異業種交流懇談会のニーズはあるかも。
- (委員)・ライバル社同士の交流が、うまく成立するのだろうか。アンケートを取って組織化のニーズがあるか探るのも一法。
- (副会長)・7月末が賛助会員さんの会費納入期限なので、納入お礼を兼ねてアンケートを実施してみたい。

3 総会のあり方【資料4】

- ・専務理事から本年5月の総会実施状況を説明。

(質疑)

- (委員長)・各委員長からの事業報告は、時間枠も守られてうまくいった。来年度総会では、講師確保の点で断念した講演会の抱き合わせ実施に挑戦できれば、さらに魅力ある総会にならないだろうか。
- (専務理事)・来年度総会では、今年度と比べて役員改選議事の時間が加わることに留意すべき。
- (副委員長)・マンネリ化を避けて新たな会員層を呼び込むためには、やはり講演会の企画が必要。従来の漫然とした議論を抑制し、コンパクトな総会運営を定着させるためにも挑戦の意義あり。
- ・会場情報だが、情文センターが予約しづらくなった。ワークピアが比較的安かったと記憶している。
- (委員)・集客が弱いのは平日開催も原因では。私の支部総会は土曜日実施だ。
- (専務理事)・人手不足の事務局員による会場設営やケータリングによる懇親会準備などの点で建設会館講堂がベストだが、土曜日は貸し出ししてくれない。日曜日は可能性があるが。
- (委員長)・来年度総会までは若干時間があるので、引き続き議論したい。

4 賀詞交歓会のあり方【資料5】

- ・専務理事から本年1月の単独賀詞交歓会実施状況を説明。

(質疑)

- (委員長)・盛況であったが、会場が手狭との声も出た。そろそろ会場も押さえなければならぬが、来年はどうするか。
- (委員)・単独開催で参加人数が増えた。来年も単独だろうから、かなりの参加がありそうだ。
- (委員)・他会場の候補としては、60周年行事で使ったLプラザ9Fのレストランがある。ただ、あれでも「狭い」との声があった。
- (副会長)・ロイヤルホールなど、その他の会場はどうか。

(専務理事)・ナビオスは、会場側への支払い額の点で低廉な実質参加費に抑えることができ、それが参加者増につながった。

- ・ロイヤルホールの単価では、1,500円の参加費値上げとなってしまうが、打ち出せるのだろうか。

(副委員長)・ワークピアは立食で350人まで収容可能とのこと。

(専務理事)・会場予約は9月がリミット。あらかじめ候補を挙げてもらわないと、9月委員会決定即予約という形で進められない。

(副会長)・ナビオス/Lプラザ/ワークピア/ロイヤルホールに絞って事務局に精査してもらってはどうか。

(委員長)・その方向で次回委員会において決定したい。

5 役員選任規程の改正の有無について【資料6】

- ・専務理事から、見直し意見を紹介（①75歳年齢制限の撤廃、②支部長枠・選挙枠・会長推薦枠の三本立てと定数配分では、全委員長の理事兼務が保証されない）

(質疑)

(副会長)・個人的には、①については、選任規程上は年齢制限条項削除、②については、H27の役員改選において、選挙枠との重複により結果的に全委員長が理事に就任できたことから、見直しを行わず様子見が適切と思う。

(委員長)・妥当な意見と思う。具体的な進め方は？

(専務理事)・8月4日の理事会では、書面上は、見直しを検討するとの打ち出しを行うものの、年齢制限撤廃等、具体の規程改正案の提出は11月理事会に送り、そこで決定するイメージ。

(委員長)・そのように進めたいが異議ないか→特に異議なし

6 その他

- ・特になし

<報告事項>

1 賛助会員講習会の企画案について

「省エネ・快適・健康な空間づくりにおける左官材の活用」

平成28年10月11日(火)午後2時～4時30分(又は1時30分～4時30分)

(施工実演を含む)

場所 神奈川建設会館2階 講堂

- ・専務理事から、今回の企画のミソは施工実演であるが、汚れ等を理由に難色を示す貸し手が多い中で建設会館の了解が取れたとの報告。また、委員長からも一見に値する工法との付言。

2 その他

- ・副会長及び専務理事から、建築甲子園への応募促進に向けた各工業高校訪問の結果を口頭で報告。

<その他>

1 次回の委員会について

平成28年9月20日(火)18:00～

【今後の日程】

第354回理事会 平成28年8月4日(木)15時～